

## B—16 衣料用洗剤の性能評価（2）

—日本の重質洗剤とアメリカの重質洗剤の比較—

花王石鹼(株)家庭品研

掛川 貞夫

○青木三千夫

1. 既報においてアメリカの重質洗剤はアメリカの洗濯条件に適合するように配合されていることと、特に洗浄力の良い洗剤ほどそのような配合がなされていること

を報告した。本報は既報に引き続き、日本の重質洗剤の洗浄力評価を行ない、アメリカの重質洗剤と比較検討した。

2. 洗剤は日本の重質洗剤15種類（43年度）を選んで用いた。污垢は油化学協会法および花王 No. 143人工汚染布を用いた。洗浄条件は日本の場合、洗剤濃度 0.1, 0.2 wt%, 洗浄温度 10, 35°C, 洗浄水硬度 4, 7, 10° DH, アメリカの場合、洗剤濃度 0.1, 0.2 wt%, 洗浄温度 35, 60°C, 洗浄水硬度 7, 10, 15° DH とした。

3. 日本の重質洗剤とアメリカの重質洗剤の平均的洗浄力をアメリカの洗濯条件で比較するならば日本の重質洗剤はアメリカの重質洗剤よりも劣る。しかし一方、日本の洗濯条件で比較するならば日本の重質洗剤はアメリカの重質洗剤に劣らない。このことは日本の重質洗剤は日本の洗濯条件に、一方アメリカの重質洗剤はアメリカの洗濯条件に適合するように配合されていることを示唆する。なお、日本の重質洗剤がアメリカの重質洗剤に比し界面活性剤+トリポリリン酸ナトリウム量が約10%少ないにもかかわらず日本の洗濯条件ではアメリカの重質洗剤に比し劣らないことは、すなわち、洗浄力/価格の尺度でみるならば日本の重質洗剤は高度な配合技術でつくられているものと考えられる。